

第3次うきは市教育大綱

まなびの^{ともしび}灯が未来を導く

～一人ひとりの心に希望の光を～

令和8年2月

第1章 教育大綱の策定にあたって

1 策定の趣旨

うきは市では、教育基本法および地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育、学術および文化の振興に関する基本的な方針を定めるため、「第3次うきは市教育大綱」を策定します。

本大綱は、教育行政に関する最上位方針として、市長と教育委員会が共有する「教育の基本理念と方向性」を示すものです。

市民が心豊かに暮らし、こどもたちが夢や希望を持って生きることのできるまちの実現をめざして、学校・家庭・地域が連携・協働しながら進める教育の羅針盤とします。

2 策定の背景

社会の変化はこれまで以上に速く、複雑で、多様になっています。人口減少、地域コミュニティの変容、国際化、デジタル化、価値観の多様化など、こどもたちが直面する環境は大きく揺れ動いています。こうした時代にあって、こどもたちが「変化と困難に向き合い、自ら学び、行動し、未来を創る力」を育てることが求められています。

そのためには、地域に根ざした学びと共に、外の世界との出会いを広げること、多様性を力に変えることが、これまで以上に重要です。

3 教育大綱の位置づけ

本大綱は、令和8年度からスタートする第3次うきは市総合計画（前期基本計画）の将来像「こどもをまんやかに すべての市民が幸せになれるまち うきは」を踏まえ、教育の分野における基本的な理念と方向性を定めるものです。

また、国の「第4期教育振興基本計画（令和5～9年度）」および「福岡県教育振興基本計画」を参照し、本市の「うきは市教育振興基本計画（令和7年度策定）」との整合を図りながら、教育行政全体を進めるうえでの拠り所となるものです。

4 大綱の実施期間

本大綱の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

第2章 うきは市の教育を取り巻く現状と課題

1 教育を取り巻く環境の変化

全国的な少子化の進行、家庭環境や地域コミュニティの変容、国際化の進展、デジタル化・情報化の加速など、教育環境は大きく様変わりしています。

こうした変化の中で、こどもたちが多様な背景をもつ人々と関わり、互いの違いを尊重しながら、未来を生き抜く力が必要となっています。

2 うきは市の現状と特色

うきは市は、耳納連山と筑後川に抱かれた自然豊かな地で、歴史ある町並みや文化が息づくまちです。地域と学校、家庭の距離が近く、住民が教育活動を支えてきたという特長があります。

一方で、中山間地の通学環境や少人数校での学習・交流機会の確保、進学やキャリア形成に関する情報格差など、地域ならではの課題も見られます。

3 教育課題の現状

こどもたちを取り巻く状況は一層多様化しています。不登校児童生徒や特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒など、特異な才能を有するこどもを含め、教育的支援を要するこどもが増加し、こどもたちの多様性が顕在化しています。

また、保護者や教職員の負担感や孤立、教育現場の人材確保など、教育を支える環境の課題も深刻化しています。

4 今後の方向性

うきは市の教育は、地域の営みと人の温かさに支えられてきました。この土地に息づく自然や文化、地域のつながりを学びの中心に据え、こどもたちがこのまちへの誇りと愛着を育める環境を大切にします。

一方で、社会の変化は大きく、未来を生きるこどもたちには地域の外の世界とつながる視点も欠かせません。多様な価値観や文化、さまざまな人々との出会いを通して、これまで気づけなかったことに気づき、自らの特性を生かして挑戦できる力を育てます。

うきはの学びが、地域と世界をつなぎ、こどもたちの可能性を広げる“未来への灯”となるよう、うきは市は変化に対応し、自ら明日を切り拓く力を育む教育を推進します。

第3章 うきは市がめざす教育の理念

1 基本理念

まなびの^{ともしび}灯が未来を導く

～一人ひとりの心に希望の光を～

うきは市の教育は、一人ひとりの内に宿る“まなびの灯”を大切にします。
それは、生まれ持った個性や感性がともす光であり
学びによって得られる気づきや広がる視野と共に
自らの未来を切り拓く力として育てていくものです。

こどもたちは、多様な人々や文化との出会いの中で灯を育み
まだ見ぬ世界へ踏み出すときにも、その光で行く手を照らし進んでいきます。
学びが深まるほどその輝きを増し
やがて私たちの未来を創り出す力となります。

うきは市は、一つひとつの灯が互いを照らし合い
人と人、地域と世界を確かにつないでいくような
ひらかれた学びを育てていきます。

2 理念を支える4つの柱

【柱1】自分を知り、自分を愛し、未来を切り拓く力を養う

- ・こどもたちが自分の個性や感性を、かけがえのない価値として受けとめられるよう、深い自己理解と自己肯定感を育てていきます。
- ・自分の可能性を信じ、未来に向かって挑戦し続けられるよう、こどもたちが主体的に生きていくための力を育てていきます。

【柱2】多様性を生かし、人と人、地域と世界をつなぐ力を培う

- ・多様な人々との出会いや、互いの理解を通して、世界へとつながる新しい価値観を創造できるような学びを大切にします。
- ・地域と世界を結ぶ経験を通じて、視野を広げ、外へ踏み出す力を育てていきます。

【柱3】自ら問いを立て、深く探究し、未来を創る力を引き出す

- ・変化の大きい時代をしなやかに生きるために、自ら課題を見つけ、問いを立て、深く探究する力を育てることで、未来を創り、自分らしく生きていく学びを追求します。

【柱4】すべての市民が自分らしく輝き、共に学び合う力を育む

- ・すべての市民が世代を超えて学び続け、自分らしく輝けるよう、違いを認め合い、互いを尊重する心を育んでいきます。
- ・一人ひとりの個性が力となり、誰も孤立することなく、共に歩むことのできる学びの環境を整えていきます。

第4章 おわりに — 教育からはじまる うきはの未来 —

うきは市は、こどもたち一人ひとりの内に宿る“まなびの灯”を育み続けます。
多様な違いが自然に尊重され、
こどもたちが自分の個性や特性に気づき、それを大切な価値として
安心して受けとめられるまちでありたいと願っています。

まなびを通じて生まれる気づきは、広い世界の多様な出会いの中で深まり、
互いの存在を響かせ合いながら、あたたかなつながりを育てていきます。

この“まなびの灯”が確かな光となって私たちの未来を力強く照らすよう、
教育をまちづくりの中心にすえ、揺るぎない歩みを進めます。
すべての人が尊重され、違いが力へと変わるうきはの未来を、
すべての市民と共に創り上げます。